

「甲武信」がユネスコエコパークに登録



山梨、埼玉、長野の3県の境にあり奥秩父主稜の中央に位置する甲武信ヶ岳

ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は、自然を厳格に保全することを目的とした世界遺産とは異なり、自然と人間社会の共生を目的とした地域です。既に登録済みの「南アルプス」に加え、6月19日、山梨・埼玉・長野・東京の3県1都12市町村にまたがる地域が「甲武信」として登録され、県内では2カ所目、日本では10カ所目のユネスコエコパークとなりました。



登録決定の連絡を受け、握手を交わす推進協議会の代表者。左から長野県川上村・藤原村長、埼玉県秩父市・久喜市長、長崎知事、山梨市・高木市長



広大な山脈と多様な動植物に 恵まれる「甲武信」

平成28年にユネスコエコパークへの登録を推進するための協議会を設立して以降、県では協議会を構成する自治体と一丸となり、登録に向けて取り組んできました。現在、ユネスコエコパークの登録数は124カ国701地域です。そのうち、日本では今回登録された「甲武信」を含めた10カ所が登録されています。

「甲武信」は甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山などの日本百名山が連なる奥秩父主稜を中心とした広大な山岳地域です。荒川、多摩川、笛吹川、千曲川を含む主要な河川の源流部であり、首都圏や周辺地域の水源域と

しても機能しています。また、地質や岩石の豊富さから植物の多様性が育まれ、多くの動物が生息しています。さらに、首都近郊にありながら山岳や森林、溪谷といった四季折々を彩る美しい自然に恵まれ、民俗芸能や山岳・神社信仰にまつわる古来からの文化が保全・伝承されている地域でもあります。

ユネスコという国際機関から世界的な評価を受けたことで、豊かな自然と人間社会が共生する同地域が国際的に注目され、環境保全や教育、人材育成といったさまざまな面で生かされることが期待されます。



ユネスコエコパークの仕組み

3つの機能

① 保存機能 (生物多様性の保全)

人間の干渉を含む生物地理学的区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること。

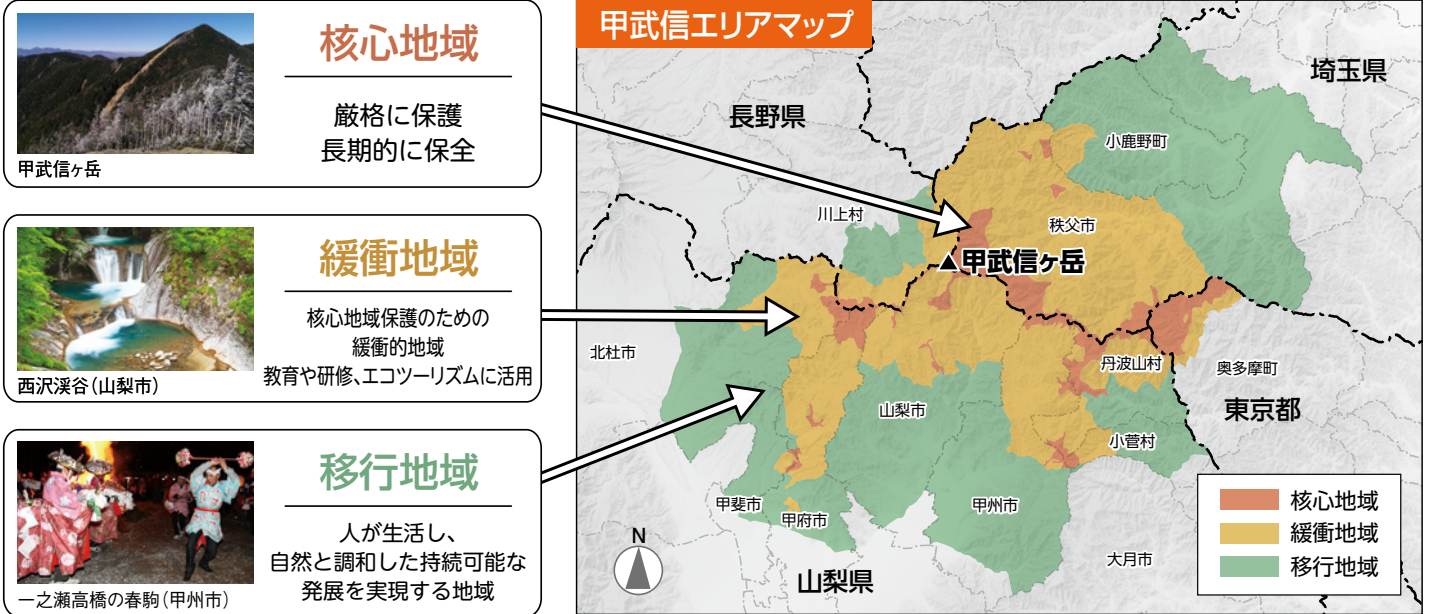
② 学術的研究支援

持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供していること。

③ 経済と社会の発展

自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取り組みが行われていること。

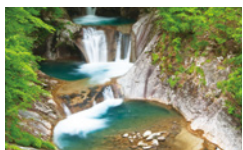
それぞれの機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。
この3つの機能を果たすために3つの地域を設定しています。



甲武信ヶ岳

核心地域

厳格に保護
長期的に保全



西沢渓谷 (山梨市)

緩衝地域

核心地域保護のための
緩衝的地域
教育や研修、エコツーリズムに活用



一之瀬高橋の春駒 (甲州市)

移行地域

人が生活し、
自然と調和した持続可能な
発展を実現する地域



乙女高原ファンクラブ
代表世話人・事務局長 植原 彰さん

乙女高原では、その昔、農耕馬の冬場のエサなどにするため、秋に草刈りが行われていました。時代が変わっても草刈りは継続され、今日まで受け継がれています。草刈りをする事で草原は保たれ、ここには森と、草原と、その境という二つの生態系が成り立っています。人が関わることで多様な生態系が保たれ、豊かな生物多様性につながっているのです。その豊かな自然環境を継承するためには、変化していく自然の状況を「知る」こと、そして問題点の調査など「行動する」ことが必要です。そのために私たちは県や市、研究者などと協働してさまざまな取り組みを行っています。今回、ユネスコエコパークに登録されたことで、乙女高原を含むこの地域の自然の魅力や価値が認められたことを大変うれしく思います。

今後は、行政の研究機関や大学と連携した生態系モニタリング調査などを期待する一方、私たちは自然の素晴らしさを人に伝える役割を担っていきたいと考えています。自然を守るためには、自然を守りたいという人の心を育てることも大切ですから、自然観察会の開催など、啓発活動を続け、将来的にはこの乙女高原に、自然への玄関口となるビジターセンターのような場がつけられることを期待しています。



草原が保たれることで多種多様な生物が生息する乙女高原 (山梨市)

素晴らしい自然を次の世代に引き継ぐために

乙女高原ファンクラブ